

レジェンダリー・アーティスト

ヴィクター・ウッテン／グルーヴ・ワークショップ

Disc 2

CHAPTER13: LISTENING

日本語翻訳テキスト

※左部の数字は、DVDの「分数:秒数」を表しております。視聴の目安として下さい。

29:14 リスニング（聞くこと）

29:37 これまで様々な視点から話をしてきたけど

29:43 次は最も大事なことを話す。

29:46 音楽だけじゃなくて人生でも大事なこと。

29:50 この中で音楽と深い繋がりがあると思う人はいる？

29:56 無理に手を挙げなくてもいいよ。

29:5 うん、全員のようなだね。

30:02 さて、音楽と

30:04 深い繋がりがあると思うのなら

30:07 知っておくべきことは

- 30:11 聴くことなしに
調和のとれた深い繋がりは成り立たない。
- 30:20 つまり相手をちゃんと聴かないと
- 30:24 良い繋がりが作れないということ。
- 30:27 僕が思うに
- 30:30 人は人生において
- 30:37 自分を聴いてくれる人を強く求める。
- 30:41 強い思いだ。
- 30:43 口に出したり、意識したりしないけど
- 30:46 誰かに聴いてもらいたいんだよ。
- 30:49 自分の楽器の音を人に聴いてもらいたいだろう？
- 30:52 人に聴いてもらうためには
- 30:54 自分が良い聞き手にならないとダメだ。
- 30:59 だろう？
- 31:00 突き詰めると
- 31:04 音楽もリスナーを求めている。
- 31:07 分かるかい？

31:08 だから僕たちも音楽を聴かないとダメだ。

31:11 もし音楽と深く繋がっているのなら

31:16 繋がっているお互いが
相手を聞くべきなんだ。

31:20 音楽に耳を傾けないといけない。

31:24 次に言うことはきれい事だけど

31:29 音楽の聴き方を変えるんだ。

31:32 自分の演奏云々とは違う次元で

31:35 自分が弾こうと思ったことは

31:40 音楽に決めさせるべきなんだ。

31:46 言い換えれば、グルーヴが始まると

31:49 例えば、こんなドラムパターンなら

31:52 一つの方法はベースラインを弾くこと。

31:56 もう一つの方法が音楽を聴くことだ。

32:01 この音楽が

32:04 僕に何を求めているかを聞き取るんだ。

32:08 人に対して言うように、何を求めているの？と

32:14 声に出して尋ねてみることもある。

32:16 答えが「何にも」かもしれない。

32:19 もしかしたらプレイしないのが一番かもしれない。

32:23 その時はそれを聞き取る訓練が必要だ。

32:28 つまり形のあるものを相手にするように
音楽を扱う。

32:33 でもその状態を保つことはしないよ。
精神病院行きになっちゃうからね。

32:40 でも音楽が語る言葉を聞く。

32:43 じゃあ、実験を始める。
このパターンだとどんなベースラインになる？

32:55 続けて。
次は君だ。

33:07 じゃあ、フランチェスコ。

33:20 OK。止めて。

33:23 ジョッシュ、フランチェスコのプレイをやって。

33:32 よく分かりません。

33:33 そうか。

33:36 じゃあ良い練習方法を教えるね。

33:40 バンドでプレイする時に誰の音を聞く？

33:49 全員？

33:50 デイヴ、もう一度言って。

33:51: 全員。

33:53 その通り、全員だ。

33:55 全員のプレイを聞くべきだ。

33:57 ところが僕たちは自分とドラマーしか
聞かない場合がほとんどだ。

34:04 全員の音を聞かないといけない。

34:07 そのための練習が今やったことだ。

34:11 さっきは3人でやったけど
これをバンドでやるともっと良い。

34:16 一通りプレイして、止めて訊くんだ。

34:19 ギターは何を弾いていた？

34:22 サックスは？

- 34:24 ボーカルが歌った歌詞は？
- 34:27 大抵は覚えていない。
- 34:32 原因は自分だ。
- 34:34 僕だって大抵はそんな聞き方をしない。
- 34:37 楽器や歌詞を別々には聞いていないし
- 34:40 全体を一纏まりで聞いている。
- 34:42 全体の纏まり具合を聞く。
それもクールだよ。
- 34:46 でもこの練習を通して
自分が演奏中に聞いているものを知る方が良い。
- 34:53 これを自分のバンドやアンサンブルでやってみるといい。
- 34:59 数日前にオハイオの高校で音楽監督をやった時に
- 35:05 常駐のジャズバンドの音楽監督にも勧めた。
- 35:10 途中で止めて、他の楽器の演奏を尋ねてみて、と。
- 35:15 分かったら素晴らしいし
- 35:18 自分の耳がいいことの証明だ。
- 35:22 何か質問はあるかい？

35:26 ジョー、何だい？

35:28 つまり「自分の耳、他人用の耳」ということですか？

35:31 その通りだ。

35:33 ウェイン・ジャクソンと『And Your Love』を録音した時に

35:40 メンフィス・ホーンズと一緒にいた。

35:44 彼らはエルヴィスとも共演していた有名なホーン・セクション。

35:50 その時は初めてニューオーリンズに行ったし

35:54 今よりも音数の多いプレイをしていた。

36:01 ウェイン・ジャクソンが

36:04 ディジー・ガレスピの言葉「音楽が落ちる穴が必要だ」
を覚えてくれた。

36:10 もっと優しい言い方でね。

36:13 ジョー、今君が言ったことがそれ。

36:16 「君は耳が2つあることを忘れないで。

36:19 片方は自分用、

36:21 もう片方は他のメンバー用だ」と。

36:25 彼なりの言い方で「聞いていない」ことを覚えてくれたんだ。

- 36:30 でもディジーの言葉と同じ意味なのさ。
- 36:34 他の人を聞かないといけない。
- 36:37 教則本や DVD などで勉強できるけど
- 36:43 君たちは言葉を覚えてたろう？
- 36:47 海外から来ている人ですら
- 36:49 僕と同じように英語を喋っている。
- 36:52 とても良い耳を持っているんだよ。
- 36:55 使い方を覚えるだけなのさ。
- 36:58 聞こえる範囲を広げるんだ。
- 37:03 僕たちは音楽で語りたいよね？
- 37:06 だったら音楽にも語らせないと。
- 37:09 だって音楽は僕たちに語りかけているから。
- 37:13 問題は自分が音楽を聞いているか？ということ。
- 37:17 自分の耳を広げて、よく聞くようになると
- 37:21 音楽との関係も良くなるし
- 37:24 人間関係も良くなる。

37:27 本当だよ。

37:32 本当に大事なことなんだ。

=Q&A

37:36 最後に今日できなかった質問をしてくれ。

37:42 デイヴがメモを取り出したぞ。質問は？

37:48 いいですか？
どうぞ。

37:50 将来に関することです。

37:53 2008年現在の状況を踏まえて

37:58 今後の音楽とベースの変化の予想と

38:01 既に突出したベーシストですが
ご自身の進化の方向を教えてください。

38:12 最初の質問から。これを聞くと

38:16 ジャコの答えを思い出す。

38:19 「明日は飛行機に乗るさ」って答えた。
彼自身が将来だったのさ。

38:24 この答えもジャコも大好きだ。

- 38:28 彼のパワーは演奏にも出ている。
- 38:31 ベースの将来は君たちにかかっているよ。
- 38:38 君たちがいるから素晴らしい未来さ。
- 38:43 今 2008 年だけど、エレキ・ベースの年齢を
- 38:47 誰か知っているかい？
- 38:52 知ってる？
- 38:56 59 歳かなあ。
- 38:59 うん、57～59 歳くらいだ。
- 39:03 まだ若い。
- 39:05 エレキ・ベースはアップライトや
ヴァイオリンやピアノとは違う。
- 39:12 43 歳の僕と大して変わらない年齢なのさ。
- 39:18 自分の楽器よりも年上のプレイヤーが弾く珍しい楽器さ。
- 39:24 うん、まだまだ幼児ってことだ。
- 39:27 だからこそ未来は明るい。
- 39:31 60 年弱の進化の凄さを考えてみて。
- 39:33 自分たちができることを考えてみて。

39:37 この楽器は生まれたばかりの子供さ。

39:41 それを踏まえて 20 年後を考えるし

39:46 生まれたばかりだからこそアイデアが浮かぶ。

39:51 君たちのように若いプレイヤーを見ると

39:58 僕よりも経験は少ないけど

40:00 例えばまだ 5 年しか経験がないでしょう。

40:05 20 年後、どんなベーシストになっているのか？

40:09 その姿を想像してみるんだ。

40:14 そうするとアイデアが浮かんでくる。

40:17 君たちの未来からアイデアを盗んでいるわけだ。

40:24 そんなふうに僕はアイデアを引き出すんだ。

40:29 奇妙だが、ベースの未来を想像してみるのさ。

40:34 僕自身は確かに技術面では先を行っている。

40:40 でもそこには利点と欠点があるんだ。

40:44 若いベーシストは僕の技術にばかり目を向けて

40:50 グループや表現したいことがなければ

技術など意味がないことに気付かないんだ。

40:59 技術を学ぶ人は将来上手くなるはずだ。

41:03 上手くなるのがゴールじゃない。

41:07 最初の頃、僕には音楽しかなかった。

41:11 赤ん坊のように技術を覚えたんだよ。

41:15 でも表現したいものがあれば

41:18 技術は後からついてくる。
僕の技術は必要だから生まれてくる。

41:25 頭の中で聞こえるものを表現するためにね。

41:28 親指でのハーモニクスを見せたけど

41:34 唸るようなギター音や

41:39 赤ん坊の泣き声を聞いて

41:43 同じ音を出したくてやり方を見つけた。

41:46 耳に聞こえる音はすべてベースで奏でられる。

41:51 前人未到なら僕がやる。

41:55 それが技術が生まれるきっかけだ。
ダブルファーミングだってそうだ。

- 42:03 速弾きギタリストのピックを見て
- 42:08 指をピック代わりに使おうと思った。
ピックは嫌いだから。
- 42:14 ピックの代わりに親指に納得した。
- 42:17 必要だからアイデアが浮かぶし
偶然からも生まれてくる。
- 42:22 君の質問の答えだが、僕は技術面で貢献しているけど
- 42:27 本当はグローヴ面でもっと貢献したい。
- 42:31 そこから技術が生まれて欲しい。
- 42:35 僕の技術を喜んでくれるのも嬉しいよ。
- 42:39 他には？
どうぞ。
- 42:43 CM ハーモニクスでは弦をベンドさせますよね？
ベンドでハーモニクスを生み出すコツは？
- 42:54 まずハーモニクスについて教えよう。
ハーモニクスをクリーンでクリアにするには
ブリッジに一番近いピックアップを使うことだ。
- 43:06 最近のベースにはPUが2つある。
- 43:09 僕の中にはパンツマミも付いてて

- 43:14 このPUとこっちのPUを切り替えられる。
ブリッジPUでは音量も上げたい。
- 43:20 ブリッジPUは高音と中音を押し出す。
- 43:22 これを最初にやってみよう。
普通のハーモニクスを弾く時には
- 43:30 ブリッジの近くの弦を右手で引っ張って
- 43:33 ハーモニクスを目立たせている。
- 43:36 君が指摘したハーモニクスはトリッキーだ。
- 43:41 こっちの手で弾く訳じゃないからね。
- 43:45 こっちの指に注目が集まるが
- 43:48 実はこっちで出しているんだ。
- 43:50 僕のやり方はこうだ。
- 43:53 親指で弦をはじくが弦を弾かない。
- 43:58 E弦を弾き
- 44:01 A弦の上に親指を置き
- 44:05 軽く指を戻し、上の弦を
- 44:09 軽く爪で触る。これが

- 44:12 ハーモニクスを出すポイント。
- 44:16 ハーモニクスはここで鳴るので
こっちをベンドできる。
- 44:20 つまり、弾いて、軽く触って、ベンドする。
- 44:24 これを同時に行なうわけだ。
- 44:28 指の戻しとベンドを同時にやるんだ。
- 44:32 親指を動かすたびにベンドできるのが
クールなんだよ。
- 44:42 あっ、フロント PU じゃなくて
リア PU にパンしないとダメだ。
- 44:52 こうやってハーモニクスを出すけど
誰にもそのやり方は分からない。
- 44:56 スラップ中でもできるよ。
- 45:03 観客は「何だ、そりゃ？」となる。
- 45:06 アンソニーも僕も指でもやるんだ。
- 45:10 アプローチは同じ。
- 45:13 弦を弾き、弾いた弦を爪で触る。
- 45:18 そしてベンド。

- 45:25 指を動かしながらね。
- 45:27 指でのやり方をもう少し教えて下さい。
- 45:32 分かった。
- 45:53 ほら、クールなワザだろう？
- 45:56 他の人を見て思い付いたわけじゃなく
- 45:59 この音が欲しかったからやったのさ。
- 46:02 ギターだったらこんな音が出せるだろう？
- 46:06 これは一つのやり方で、使い方は色々だ。
- 46:10 テクニックの使い方は自分次第さ。
他に質問は？
- 46:16 僕が思うに、君は恐れ知らずのベーシストさ。
- 46:22 ライブ中に平気で新しいことをやってしまう。
- 46:29 失敗への恐怖を克服する方法は何なんだい？
- 46:36 変な答えになると思うけど
- 46:41 心配しないことさ。
- 46:45 これはしばらく言い続けているけど
- 46:48 気になるからこそ心配しない。

46:54 言い換えれば……
上手く説明できないんだけど

47:01 君たちが考えるから、僕は僕なんだ。

47:05 誰も僕に興味を示さなければ

47:10 僕は自宅で子育てする父親さ。
ベーシストのヴィクターは君たちで成り立っている。

47:18 だから君たちに感謝している。

47:20 でも同時に君たちの受け止め方は気にしていない。

47:24 ステージ上では自分だけの世界にいて

47:27 自宅で練習している時と変わらない。

47:32 君たちが考える僕でいたいと思いつつも

47:35 一方でそんなことは気にしないのさ。

47:40 その両極の中道を見つけるために

47:43 偏らないために自分のしたいことをやるだけだ。

47:47 一人で練習しているかのように

47:51 とにかくプレイするだけ。
でも僕を観に来てくれる人たちが好きだから

- 47:57 感謝しているから
- 48:00 心配を恐れずに
- 48:05 良い演奏にするために掘り下げるんだ。
- 48:10 練習中にミスしたら、止めて直すけど
- 48:14 ステージではそんな暇はない。
- 48:16 だから何も気にせずにやりたい放題する。
- 48:22 でも観客のために必死に演奏するんだよ。
- 48:27 観客の前で失敗しても気にしない。
- 48:32 失敗したらそれまで。仕方ない。
- 48:35 その境地に達するコツは日常生活にある。
- 48:41 生き方も着る服も自分らしくあり
- 48:46 思ったことは正直に言う。
そういう日々の姿勢を
- 48:51 音楽をやる時にも貫くんだよ。
- 48:53 もう一つ加えるなら
僕はこれまで自由にプレイできる環境に恵まれていた。
- 49:03 しかしベースの楽器的役割には限界があるから

49:09 その限界を見極めることも必要だ。

49:13 でもフレットトーンでの僕は自由だし

49:17 自分のバンドでは君が支えてくれている。

49:23 そんな恵まれた環境で

49:26 自由に弾いてくれと言われてきたことも

49:31 今の僕を作っているね。

49:35 そのせいで自由に弾ける仕事しか頼まれないとか？

49:42 それはある。

49:47 普通のベースを弾く仕事はほとんど入らない。

49:52 きっと普通のベースを弾くベーシストを考える時に
僕は思い浮かばないんだろうね。

50:00 僕は超テクで花火のようなベーシストって印象なのかも。

50:05 誰かがどこかで
「普通のベースもできるかも」と思ってくればいいが。

50:12 僕はやってみたいのに依頼がこないのさ。

50:17 去年インディアナ・アリーのレコードに参加したが

50:22 最初クレージーなベースソロを求められると思ったら
普通のベースを弾いてくれと言われ

50:32 アコースティックベースを弾くことになった。

50:37 とても嬉しくて、快諾したよ。

50:42 僕が弾いたのは「サマー」という曲。

50:47 こういう仕事は本当に稀だ。

50:52 これは自業自得で仕方のないこと。
そんな経験で一つ気付いたことがある。

51:03 僕のテクニックが声高に喋るから
ケーキの飾りのようなものになってしまい
そこに人々の注目が集まり

51:12 飾りの下の9割は注目されない。

51:18 それが本体なのに。

51:20 僕は派手なソロをプレイするけど
それは1割ぐらいのもので

51:30 それ以外の9割は普通のベースを弾いているんだ。

51:35 サポート役に徹している僕にみんな気付かないのさ。

51:41 まあ、悪いことじゃないよ。

51:46 良い人生だし、みんなも好きでいてくれる。

51:50 ただ時には普通のベースも弾いてみたいんだ。

51:55 あなたのテクニックを順番に練習していて

52:02 ダブル・サムピッキングでつまずいています。

52:06 原因が分からなくて……

52:15 音を少し上げて聞かせてくれる？

52:18 こんな感じで……

52:25 他の人を見ても分からなくて、教えてもらえたら……

52:37 ゆっくりやってみてくれ。

52:41 もっとゆっくり上下させてみて。

52:46 親指をピックだと考えて。

52:52 そう、それ。

52:54 うん、それが正解。
じゃあ、次は……

52:59 指板から親指を少し離してみて。

53:03 空間を作れば弦の間に親指が入る。

53:08 うん、指板とPUの間だ。

53:12 そう。

- 53:15 親指を入れこんで弾き
- 53:18 上げる時に身体に向ける。
- 53:20 それでいい。
- 53:24 ほら、上手くなっただろう？
- 53:27 できないわけじゃないのさ。
- 53:30 説明するね。
- 53:34 カギはこれだ。大抵は……
- 53:38 A 弦を弾いた後に指を離す。
- 53:42 普通はこれで OK だ。
- 53:45 ダブル・サムだとこれではダメ。
- 53:51 下の弦まで指を動かすのさ。
- 53:55 つまり A 弦の後に D 弦に置く。
- 53:58 ラクに弾くには指板から離すこと。
- 54:01 指板上でもできるけど
- 54:06 親指を弦の下に入れられない。
- 54:10 だからここで弾いて、指を入れる。

54:14 ゆっくりやるよ。

54:19 ピックで弾くのと同じ。

54:22 テクニックは変わらない。

54:25 テクニックが分かったら

54:32 それをコンテキストの中で使うんだ。

54:37 最も簡単なのはスケールに入れこむこと。

54:48 ドラムマシンに合わせてもいい。

54:51 ビートに合わせて

54:53 音楽を作るようにするんだ。

54:58 指で弾くことを考えてみて。

55:01 A 弦を弾く時に弾いた後に指を離さないだろう？

55:07 弾いた後に上の弦で指を止める。

55:09 同じことを親指でやるんだ。

55:12 同じだろう？

55:15 指を外さなければ

55:19 下に動かす時に弦に触れる。
これがもう一つのワザ。

55:27 弾けさせる。

55:29 手を動かさずにできるんだ。

55:34 これが好きだね。

55:43 こんなふうには弾ける音を出せる。

55:47 これがダブルってこと。

55:50 指を離さないで、この動きを利用するんだよ。

55:55 カギはゆっくり練習することだ。

56:16 手首と腕のどちらを使いますか？

56:19 良い質問だ。
僕の悩みもそこで……

56:22 手首か腕かそれ以外か。

56:26 ここは大事なポイントだ。

56:29 この話はほとんどしないからね。

56:32 腕全体の筋肉を個々にも同時に使うようにする。

56:37 フレットトーンでこんな曲をやっている。

56:43 これを長時間やらないといけない。

56:48 これを長時間やる時には

56:52 親指の筋肉だけでやるんだ。

56:57 そして手首を使い

57:00 前腕を動かし、肩も動かす。

57:05 肩を支点に上下する感じ。

57:10 これで長時間でも疲れのないさ。

57:15 使う筋肉を移動させつつ、同時に使う。

57:18 親指は補助みたいに？

57:22 親指を操るために

57:24 筋肉を補助的に使うってことだね。

57:28 だからゆっくり練習して

57:31 親指の筋肉を利用するんだ。

57:34 ソフトな曲で使うこともある。

57:37 親指を使う人はラウドで強いことが多い。

57:42 でもバラードだと……

57:52 これは親指の筋肉だけで弾く。

- 57:55 音が大きくなると……
- 57:59 手首をひねり、肘を曲げ始める。
- 58:04 だからここの筋肉を別々にも
同時にも使える練習を勧めるね。
- 58:11 もう一つ質問です。
弾ける音を出す時に
- 58:19 アンソニーの手はホバリングしている感じで
- 58:23 弾いているようには見えません。
- 58:30 掌が広がっていて
- 58:32 あなたの手は指が内側に入っている感じです。
- 58:40 どちらが正しいのですか？
- 58:44 自分がやり易い方でいいと思う。
- 58:49 僕たちは同世代で、
それぞれが技術を習得してきた。
- 58:58 つまり同じ音楽から影響を受けたわけだ。
- 59:02 僕は僕のやり方で覚え
- 59:10 彼のやり方を見て向上させはしたが
二人とも自分のやり方が最もラクなんだ。

59:16 若い人はヴィクターのやり方を覚えるけど

59:21 実際は僕たちのスタイルは似ている。

59:27 だから一緒にプレイできるんだ。

59:30 二人とも親指は弦に平行だし
親指で弾くのも自然だ。

59:36 彼が説明するまで気付かないくらいだった。

59:42 本当に似たスタイルなのさ。

59:46 ただ僕は人に教えることをしないから

59:51 分かり易い動きをせずに弾いているだけ。

59:55 はい、まるで普通に弾いている感じがします。

1:00:01 ゆっくり見せて下さい。

1:00:06 これでスローか？

1:00:08 音が小さいと何でもなく見えて
音量が上がると凄いです。

1:00:14 ほら、見てごらん。

1:00:19 ここで彼は指2本を使っている。

1:00:21 その上、リズムの一部はこっちで出している。

- 1:00:26 親指と指 2 本でブラックして
ここでハンマリングもしている。
- 1:00:33 4つの動きを一度にやっているんだ。
- 1:00:39 その上、下にストラムしてもいる。
- 1:00:45 一つの動きで色んなことが可能なのさ。
- 1:00:49 僕が時々こんなふうにするのは
- 1:00:54 内側の弦をブラックアップするためだ。
- 1:00:57 2本の指でE弦とD弦を弾くんだ。
- 1:01:00 手がここにあるとそれが難しい。
- 1:01:05 内側の弦に届かないんだ。
- 1:01:08 親指でEのキーしかできない理由がこれ。
- 1:01:12 5弦や6弦ベースが難しいのは
- 1:01:16 Bのキーの弦が内側にあるから。
- 1:01:18 内側の弦を弾き易くするには
- 1:01:20 D弦とA弦の
- 1:01:25 ブラックを覚えること。
- 1:01:29 いつでも準備 OK でいたいから

次の動きに備えて

1:01:36 腕は常にここに置くんだ。

1:01:41 でも正解はなくて、自分次第。

1:01:44 はい、分かりました。

1:01:46 良い質問だった。

1:01:49 掌と手でリズムを作る動きがありますが

1:01:55 あのやり方を教えて下さい。

1:02:01 ああ、これだろう？

1:02:03 ええ、それです。

1:02:04 まずは誕生のきっかけ。

1:02:07 僕の左足が見えるか分からないけど、

1:02:11 ドラマーはハイハットをこんなふうに踏むだろう。

1:02:18 その動きを手で真似ているんだ。

1:02:22 コンセプトは……

1:02:25 カカトと爪先を

1:02:29 手でこうやる。

- 1:02:33 そのままだと上手くいかないから
- 1:02:38 指だけを使ってやるようになった。
- 1:02:42 指の付け根で弦を触り
- 1:02:45 爪先まで動かす。
- 1:02:47 こんな感じ。
- 1:02:54 補助として
- 1:02:56 時々この指を使う。
- 1:02:58 上げる時にこうする。
- 1:03:00 この組み合わせだ。
- 1:03:05 練習したわけではなくて
ドラマーを見てやってみただけだ。
- 1:03:10 これで三連符もできる。
- 1:03:15 カカトと爪先でハンマリングする。
- 1:03:18 右手でカカトと爪先
- 1:03:20 こっちで叩く。
- 1:03:24 こんなやり方もありだ。
- 1:03:28 気に入っているのは

1:03:34 ロールアップして

1:03:37 ブラックできる点。

1:03:58 練習してないけど、今言われて

1:04:02 練習すべきだって思ったね。

1:04:06 DVD を買って練習しなきゃ。

1:04:11 始めた理由は分からないけど、
クールなテクニックさ。

1:04:13 いい音だし、クールだと思います。

1:04:19 さて、僕からも質問がある。

1:04:23 音楽を一言で表すのなら

1:04:30 たった一言で表すとすれば

1:04:34 それは何？

1:04:41 マイケル、どうぞ。

1:04:43 愛と感情。

1:04:45 うん、いいね。他は？
何でもいいよ。
デイヴ、どうぞ。

- 1:04:50 スペクトラムです。
- 1:04:55: ビリー・コブハムのアルバムタイトルだ。いいね。
- 1:04:59 ジャあ、フランチェスコ。
- 1:05:02 生命です。
- 1:05:06 生命、いいね。
ジョーは？
- 1:05:08 良い気分や悲しい気分などの感情で
音楽によって感じ方が違うと思います。
- 1:05:16 感情や感じ方だね。
- 1:05:20 カート、君は？
- 1:05:22 経験です。
- 1:05:25 音楽は経験ってことだね。
- 1:05:27 ジョッシュ、最後は君だ。
- 1:05:32 一度も考えたことがないので……
音楽は僕のすべてなので。
- 1:05:40 音楽がすべてだから考えたことがない。いいね。
素晴らしい答えが出たよ。
- 1:05:49 この質問を世界中ですてきた。

- 1:05:57 いつでも素晴らしい答えが返ってくる。
- 1:06:00 この答えは君たちのもので正解はない。
- 1:06:03 一度も聞いたことのない答えがあるよ。
- 1:06:08 音楽は音符とか、スケールとか、
- 1:06:15 テクニックとか言った人は皆無だ。
- 1:06:20 モードでも、理論でもなく
- 1:06:22 自分が弾いている楽器でもない。
- 1:06:32 音楽は自分の楽器じゃないのに
- 1:06:37 僕たちはベースを弾き続けている。
- 1:06:40 楽器は音楽じゃないと言いながら。
- 1:06:44 音楽が愛、生命、感情、スペクトラム、すべてなら
- 1:06:50 楽器を弾く時、いやその前から
君が演奏すべきものは
- 1:06:55 今言った事柄なんだよ。
先生から教わるのもそれ。
- 1:07:02 DVD で教わるのもそれ。
- 1:07:07 本から学ぶ時に求めるのもそれ。

1:07:10 音楽を聴く時も、作る時も、演奏する時も

1:07:15 表現すべきはそれ。

1:07:18 それが出来れば人は君に耳を傾ける。

1:07:22 永遠にね。

1:09:36 最後まで頑張ってくれてありがとう。

1:09:42 赤い薬と青い薬、どっちを飲んだ？
両方飲んでくれたら嬉しい。

1:09:48 僕が説明したことはすべて既存のことだ。

1:09:54 だから追加情報として扱って欲しい。

1:09:58 今は使えないと思っても捨てないでくれ。

1:10:03 覚えていて、使える時に参考にして欲しい。

1:10:06 僕の説明が役立つことを願っている。

1:10:13 君たちの刺激になって欲しい。

1:10:17 最初は難しいことでも

1:10:20 努力が必要なことでも

1:10:25 克服することが人を成長させるんだ。
自分のプレイに取り入れてくれ。

- 1:10:32 僕の一方的な話ではなく
- 1:10:38 君への贈り物として、人と分かち合ってくれ。
- 1:10:42 そうやってコミュニケーション力を増して
- 1:10:45 音楽を豊かなものに変えて欲しい。
- 1:10:50 有益な情報として使ってくれ。
- 1:10:55 さっき質問した
- 1:10:58 「音楽とは何か？」
- 1:11:03 「一言で言い表すとしたら？」
- 1:11:06 これは君たちに贈る最も大事な質問だ。
- 1:11:11 答えは技術でも楽器でもない。
- 1:11:18 自分の内側にあるものが答えなんだ。
- 1:11:22 つまり音楽も自分の内側にあるものだ。
- 1:11:26 それを考えて欲しい。
どこかでまた会おう。
- 1:11:30 ありがとう。ピース！

(翻訳：中山美樹 Miki Nakayama)